

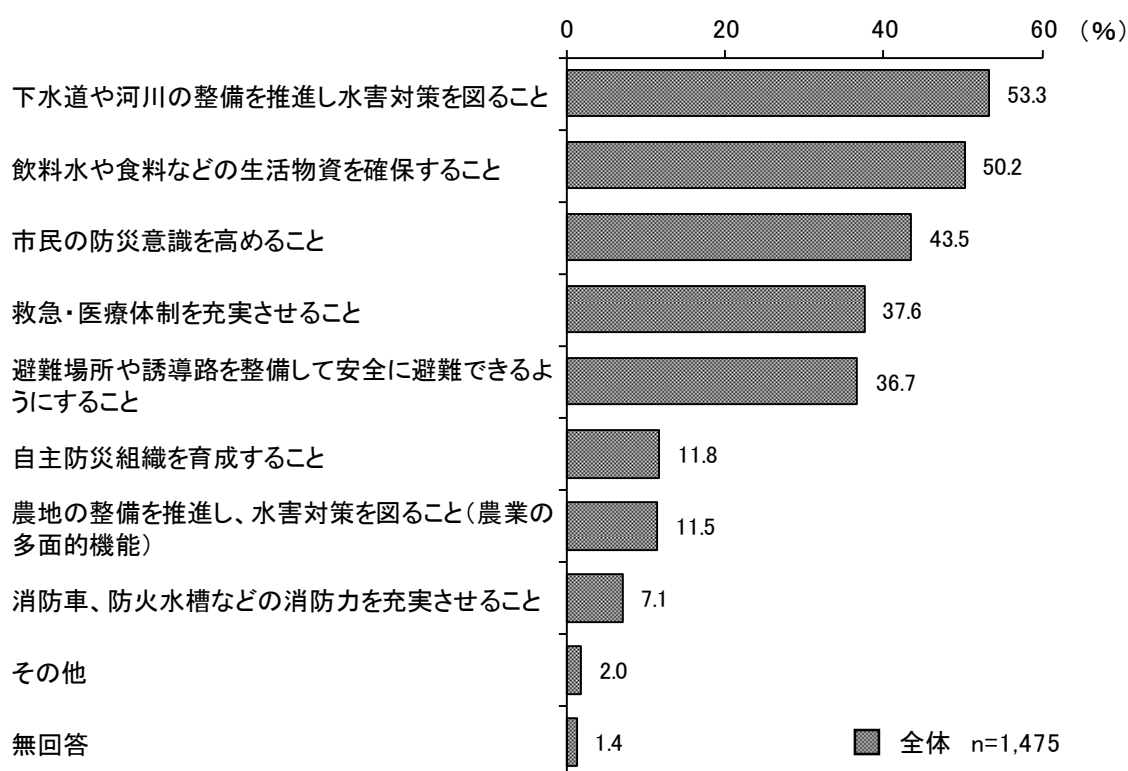
6 地域社会と市民生活について

(1) 防災対策として必要な施策

◇「下水道や河川の整備を推進し水害対策を図ること」が 53.3%

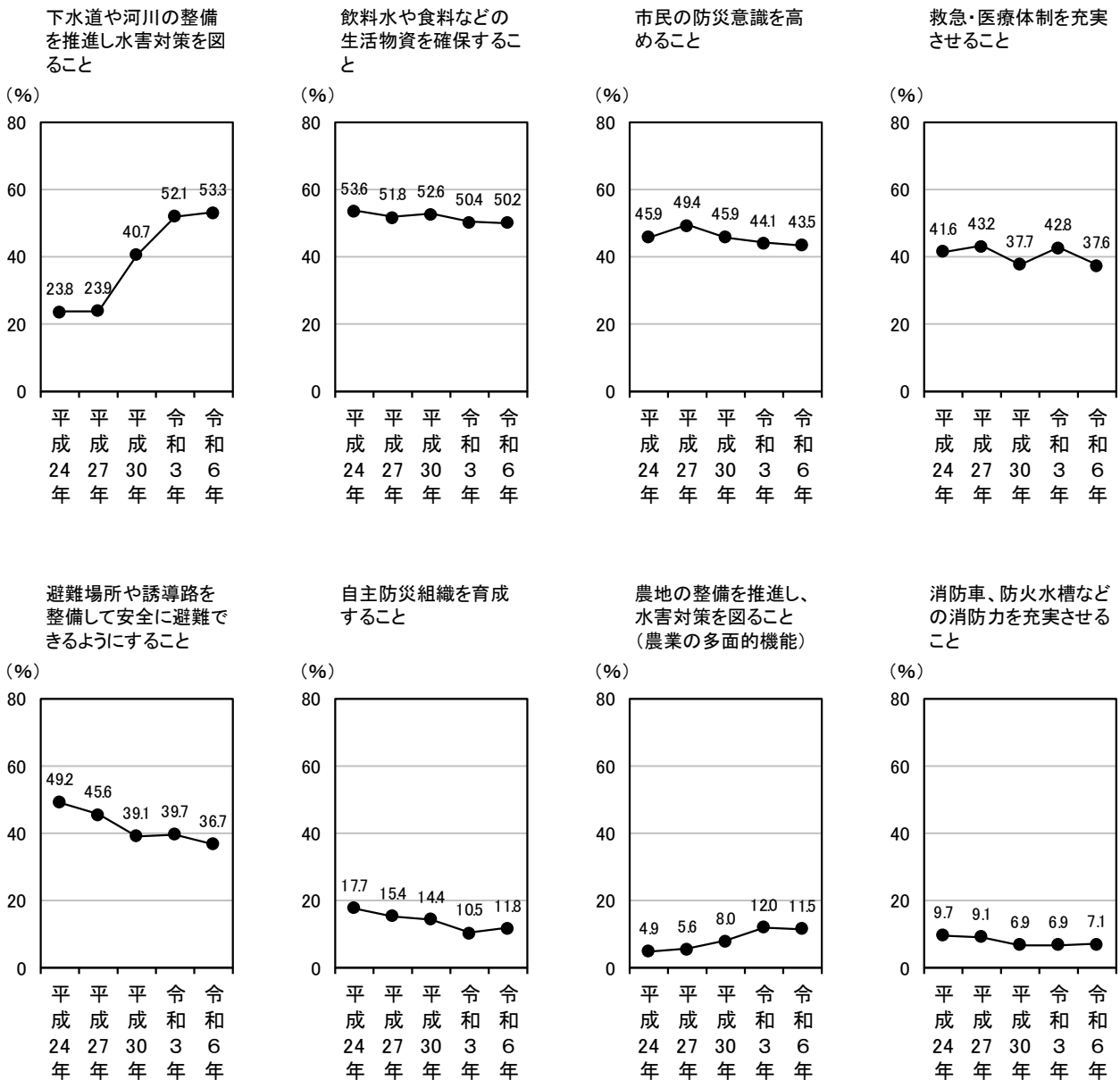
**問 40 あなたは、防災対策として、どのような施策が必要だと思いますか。
次の中から3つ以内で選んでください。(3つまで)**

防災対策として必要な施策については、「下水道や河川の整備を推進し水害対策を図ること」が 53.3%で最も高く、次いで「飲料水や食料などの生活物資を確保すること」が 50.2%、「市民の防災意識を高めること」が 43.5%、「救急・医療体制を充実させること」が 37.6%となっている。



■ 時系列での比較

時系列でみると、「下水道や河川の整備を推進し水害対策を図ること」は前回調査と比べ 1.2 ポイント、平成 24 年度と比べ 29.5 ポイント増加し、平成 27 年度～令和 3 年度に比べ緩やかなものの、増加傾向が続いている。「農地の整備を推進し、水害対策を図ること（農業の多面的機能）」は、令和 3 年度までの増加傾向から横ばいとなっている。一方、「避難場所や誘導路を整備して安全に避難できるようにすること」は前回調査と比べ 3.0 ポイント、平成 24 年度と比べ 12.5 ポイント減少し、減少傾向となっている。「飲料水や食料などの生活物資を確保すること」、「市民の防災意識を高めること」についても、やや減少傾向となっているが、「自主防災組織を育成すること」は減少傾向からやや増加している。



■ 性別・年代別（上位6項目）

上位6項目を性別・年代別でみると、「下水道や河川の整備を推進し水害対策を図ること」は男性40歳代以上、女性40歳代、60歳代で1位となっており、男性30歳代以上、女性20歳代以上は5割以上と高くなっている。「飲料水や食料などの生活物資を確保すること」は男性20歳代、30歳代、女性20歳代、30歳代、50歳代、70歳以上で1位となっており、男性20歳代、30歳代、女性20歳代は6割台と高くなっているが、60歳代は男女とも4割前後とやや低くなっている。また、「市民の防災意識を高めること」は女性30歳代、50歳代で5割、「救急・医療体制を充実させること」は男性60歳代で5割近くと高くなっている。

単位: %	下水道や河川の整備を推進し水害対策を図ること	飲料水や食料などの生活物資を確保すること	市民の防災意識を高めること	救急・医療体制を充実させること	避難場所や誘導路を整備して安全に避難できるようにすること	自主防災組織を育成すること
全体 n=1,475	53.3	50.2	43.5	37.6	36.7	11.8

【性別・年代別】

男性 n=597	53.3	50.1	41.7	37.7	33.3	12.4
男性18・19歳 n=12	58.3	58.3	58.3	41.7	25.0	8.3
男性20歳代 n=50	44.0	64.0	38.0	34.0	34.0	14.0
男性30歳代 n=53	50.9	69.8	28.3	45.3	34.0	9.4
男性40歳代 n=83	56.6	49.4	39.8	34.9	25.3	9.6
男性50歳代 n=120	51.7	50.8	45.8	34.2	28.3	7.5
男性60歳代 n=113	51.3	39.8	37.2	48.7	41.6	13.3
男性70歳以上 n=166	57.2	45.8	47.0	32.5	35.5	17.5

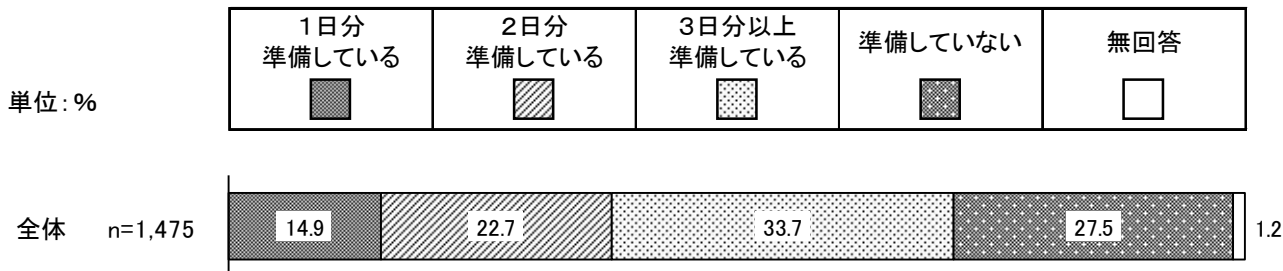
女性 n=829	54.8	50.9	45.5	38.0	39.7	11.3
女性18・19歳 n=5	40.0	100.0	60.0	20.0	20.0	20.0
女性20歳代 n=57	57.9	63.2	31.6	42.1	38.6	14.0
女性30歳代 n=94	54.3	56.4	50.0	41.5	37.2	14.9
女性40歳代 n=148	54.7	46.6	46.6	41.9	37.2	10.8
女性50歳代 n=174	53.4	54.0	50.0	38.5	39.1	8.0
女性60歳代 n=141	62.4	40.4	39.0	38.3	46.1	14.2
女性70歳以上 n=209	50.2	51.7	46.4	32.1	39.7	10.0

(2) 水・食料の備蓄量

◇「3日分以上準備している」が33.7%

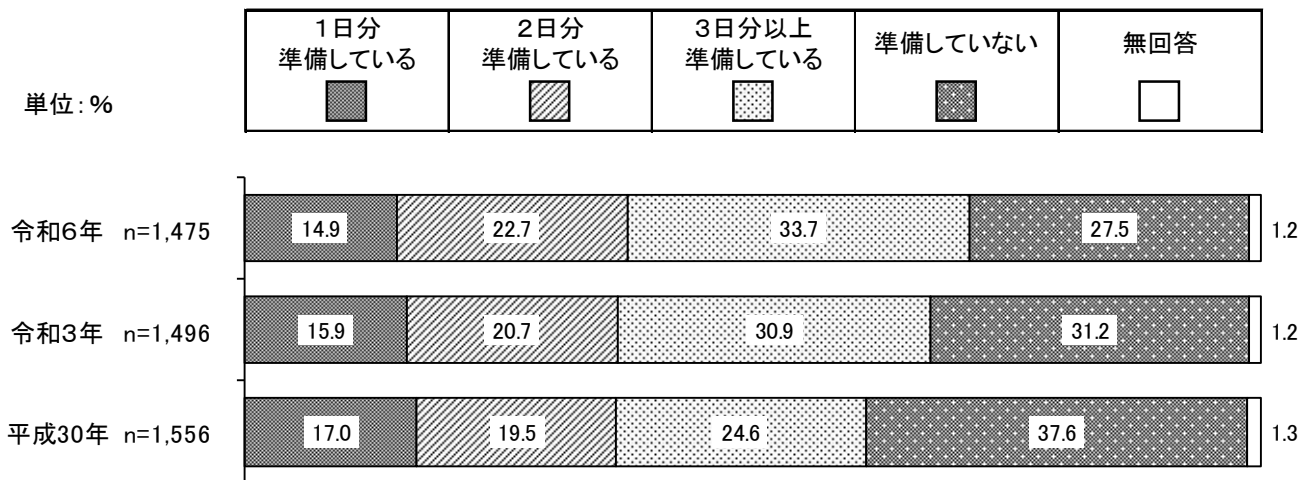
**問 41 東日本大震災以降、個人で3日分以上の水や食料の備蓄が必要といわれていますが、あなたは
何日分準備していますか。(1つのみ)**

水・食料の備蓄量については、「3日分以上準備している」が33.7%で最も高く、次いで「2日分準備している」が22.7%、「1日分準備している」が14.9%となっている。なお、「準備していない」は27.5%となっている。



■ 時系列での比較

時系列でみると、「3日分以上準備している」は前回調査と比べ2.8ポイント増加し、「2日分準備している」と共に増加傾向となっている。一方、「1日分準備している」、「準備していない」は減少傾向となっている。



■ 性別・年代別

性別・年代別でみると、「3日分以上準備している」は男性40歳代以上、女性50歳代以上で1位となっており、男性70歳以上、女性60歳代、70歳以上は4割台と高くなっている。一方、男女とも20歳代、30歳代は「準備していない」が1位となっており（男性30歳代は「1日分準備している」と同率）、男性30歳代を除き4割台と高くなっている。

単位：％	1日分 準備している	2日分 準備している	3日分以上 準備している	準備していない	無回答
全体 n=1,475	14.9	22.7	33.7	27.5	1.2

【性別・年代別】

男性 n=597	13.2	21.8	36.0	28.6	0.3
男性18・19歳 n=12	16.7	16.7	33.3	33.3	0.0
男性20歳代 n=50	12.0	16.0	28.0	44.0	0.0
男性30歳代 n=53	28.3	17.0	26.4	28.3	0.0
男性40歳代 n=83	20.5	15.7	33.7	30.1	0.0
男性50歳代 n=120	8.3	25.0	35.8	30.8	0.0
男性60歳代 n=113	14.2	20.4	39.8	25.7	0.0
男性70歳以上 n=166	7.8	27.1	40.4	23.5	1.2

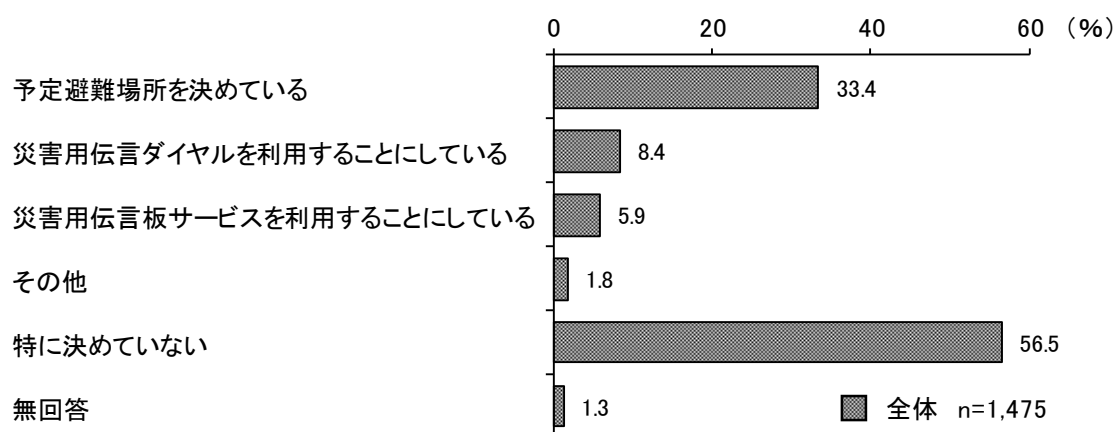
女性 n=829	16.3	23.6	32.9	26.5	0.6
女性18・19歳 n=5	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0
女性20歳代 n=57	19.3	3.5	26.3	49.1	1.8
女性30歳代 n=94	11.7	22.3	22.3	43.6	0.0
女性40歳代 n=148	25.0	26.4	25.7	23.0	0.0
女性50歳代 n=174	20.7	25.3	28.2	25.3	0.6
女性60歳代 n=141	12.8	25.5	41.1	20.6	0.0
女性70歳以上 n=209	10.0	24.9	43.1	20.6	1.4

(3) 家族等との安否確認手段

◇「予定避難場所を決めている」が 33.4%

問 42 あなたは、災害が起きた際、家族等との安否確認手段を決めていますか。(いくつでも)

家族等との安否確認手段については、「予定避難場所を決めている」が 33.4%で最も高く、次いで「災害用伝言ダイヤルを利用することになっている」が 8.4%、「災害用伝言板サービスを利用することになっている」が 5.9%となっている。なお、「特に決めていない」は 56.5%となっている。



■ 性別・年代別

性別・年代別でみると、「予定避難場所を決めている」は女性が男性より高く、女性20歳代、40歳代は4割台と高くなっている。一方、「特に決めていない」は、男性は全年代で5割以上、20歳代は7割を超え高くなっている。女性も30歳代でほぼ6割、20歳代、50歳代、60歳代、70歳以上で5割以上と高くなっている。

単位：％	予定避難場所 を決めている	災害用伝言ダ イヤルを利用す ることにしてい る	災害用伝言板 サービスを利用 することにして いる	その他	特に決めてい ない	無回答
全体 n=1,475	33.4	8.4	5.9	1.8	56.5	1.3

【性別・年代別】

男性 n=597	28.1	8.0	6.0	1.5	62.3	0.5
男性18・19歳 n=12	16.7	8.3	0.0	0.0	83.3	0.0
男性20歳代 n=50	20.0	2.0	2.0	4.0	72.0	0.0
男性30歳代 n=53	22.6	5.7	5.7	1.9	67.9	0.0
男性40歳代 n=83	32.5	6.0	8.4	1.2	62.7	0.0
男性50歳代 n=120	21.7	5.0	10.0	1.7	68.3	0.0
男性60歳代 n=113	34.5	15.0	3.5	0.9	53.1	0.0
男性70歳以上 n=166	31.3	9.0	5.4	1.2	57.8	1.8

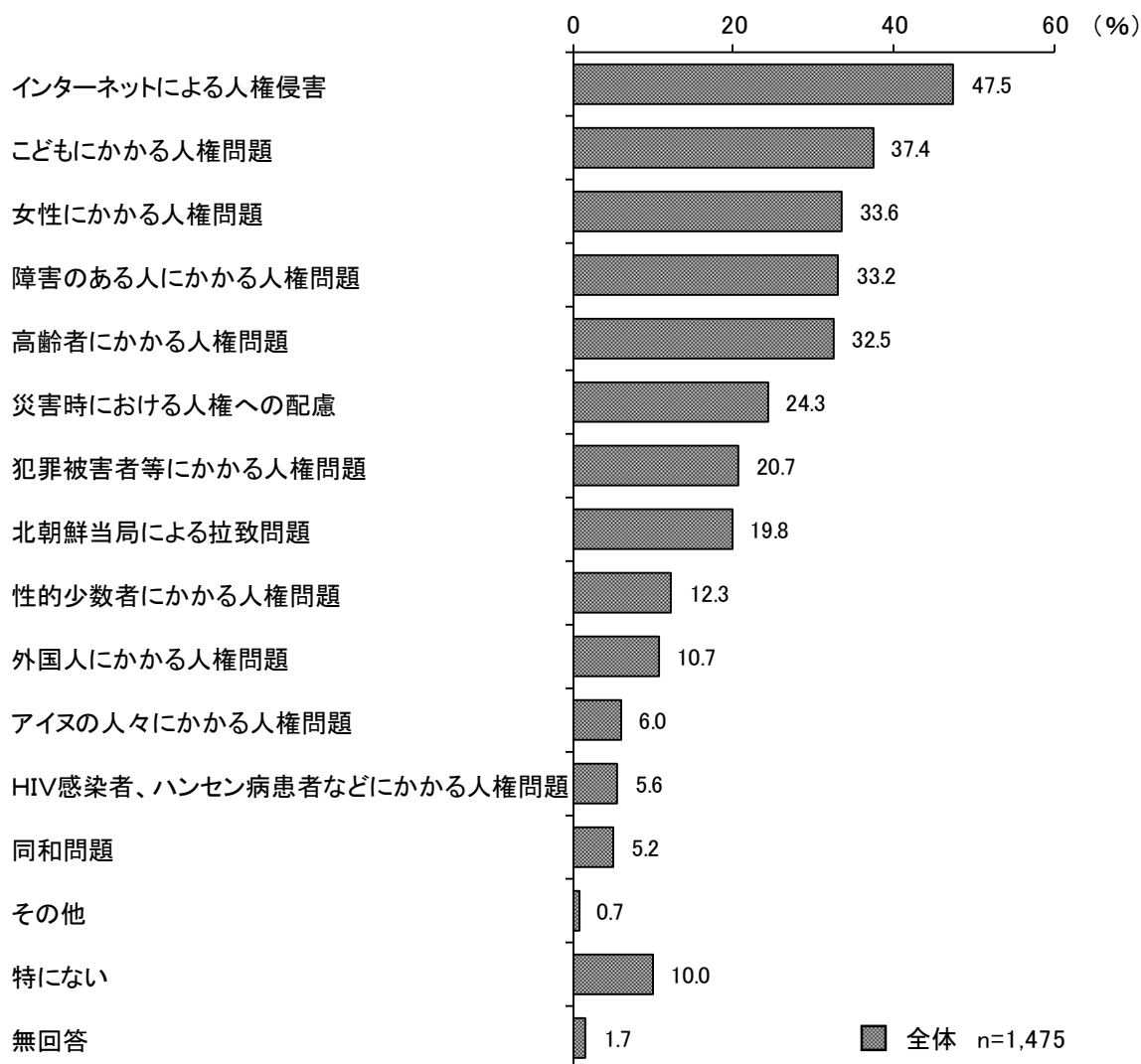
女性 n=829	38.4	9.0	5.9	1.9	52.1	0.7
女性18・19歳 n=5	60.0	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0
女性20歳代 n=57	42.1	1.8	1.8	1.8	52.6	1.8
女性30歳代 n=94	30.9	6.4	6.4	2.1	60.6	0.0
女性40歳代 n=148	48.6	8.1	6.1	2.0	45.3	0.0
女性50歳代 n=174	36.2	9.2	6.3	1.7	53.4	0.6
女性60歳代 n=141	35.5	12.1	6.4	2.1	53.2	0.0
女性70歳以上 n=209	36.8	10.5	5.7	1.9	51.7	1.9

（４）関心のある人権問題

◇「インターネットによる人権侵害」が 47.5%

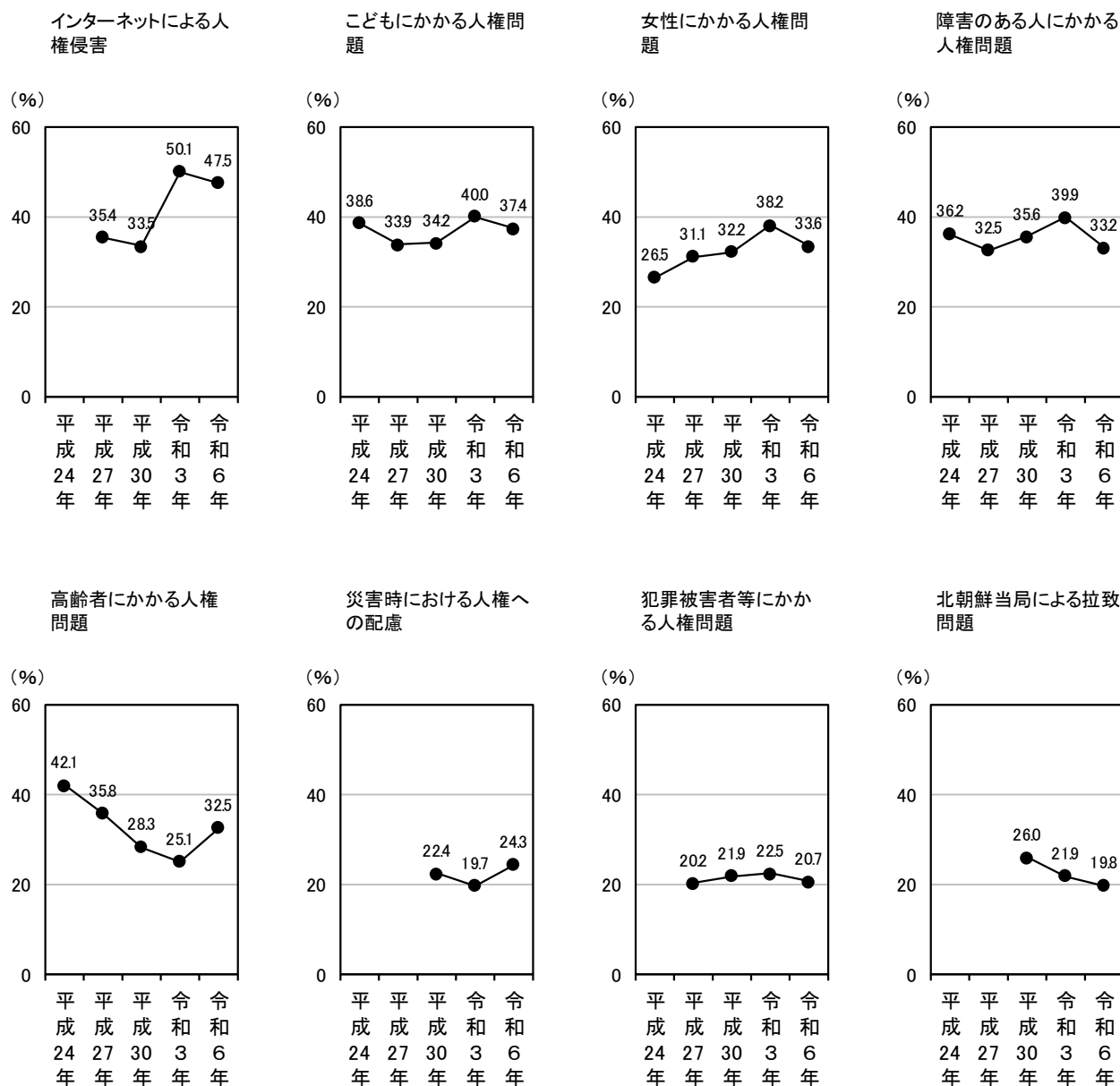
問 43 現在、日本の社会には基本的人権に関わる問題がいくつかありますが、あなたが関心のあることは何ですか。（いくつでも）

関心のある人権問題については、「インターネットによる人権侵害」が 47.5%で最も高く、次いで「こどもにかかる人権問題」が 37.4%、「女性にかかる人権問題」が 33.6%、「障害のある人にかかる人権問題」が 33.2%となっている。



■ 時系列での比較（上位8項目）

上位8項目を時系列でみると、「高齢者にかかる人権問題」は前回調査より7.4ポイント増加、「災害時における人権への配慮」は4.6ポイント増加し、減少傾向から増加傾向に転じている。それ以外の6項目は前回調査より減少しており、「障害のある人にかかる人権問題」は6.7ポイント減少、「女性にかかる人権問題」は4.6ポイント減少し、増加傾向から減少傾向に転じている。また、「北朝鮮当局による拉致問題」は減少傾向が続いている。



■ 性別・年代別（上位6項目）

上位6項目を性別・年代別でみると、「障害のある人にかかる人権問題」以外は女性が男性より高くなっており、「女性にかかる人権問題」は2割上回っている。「インターネットによる人権侵害」は男性20～60歳代、女性40～60歳代で1位となっており、40歳代、50歳代は男女とも5割台と高くなっている。「こどもにかかる人権問題」は男女とも30歳代で1位となっており、女性30歳代、40歳代は5割台と高くなっている。「女性にかかる人権問題」は女性20歳代で1位となっており、女性20～40歳代は5割前後と高くなっている。「高齢者にかかる人権問題」は男女とも70歳以上で5割台、1位となっている。

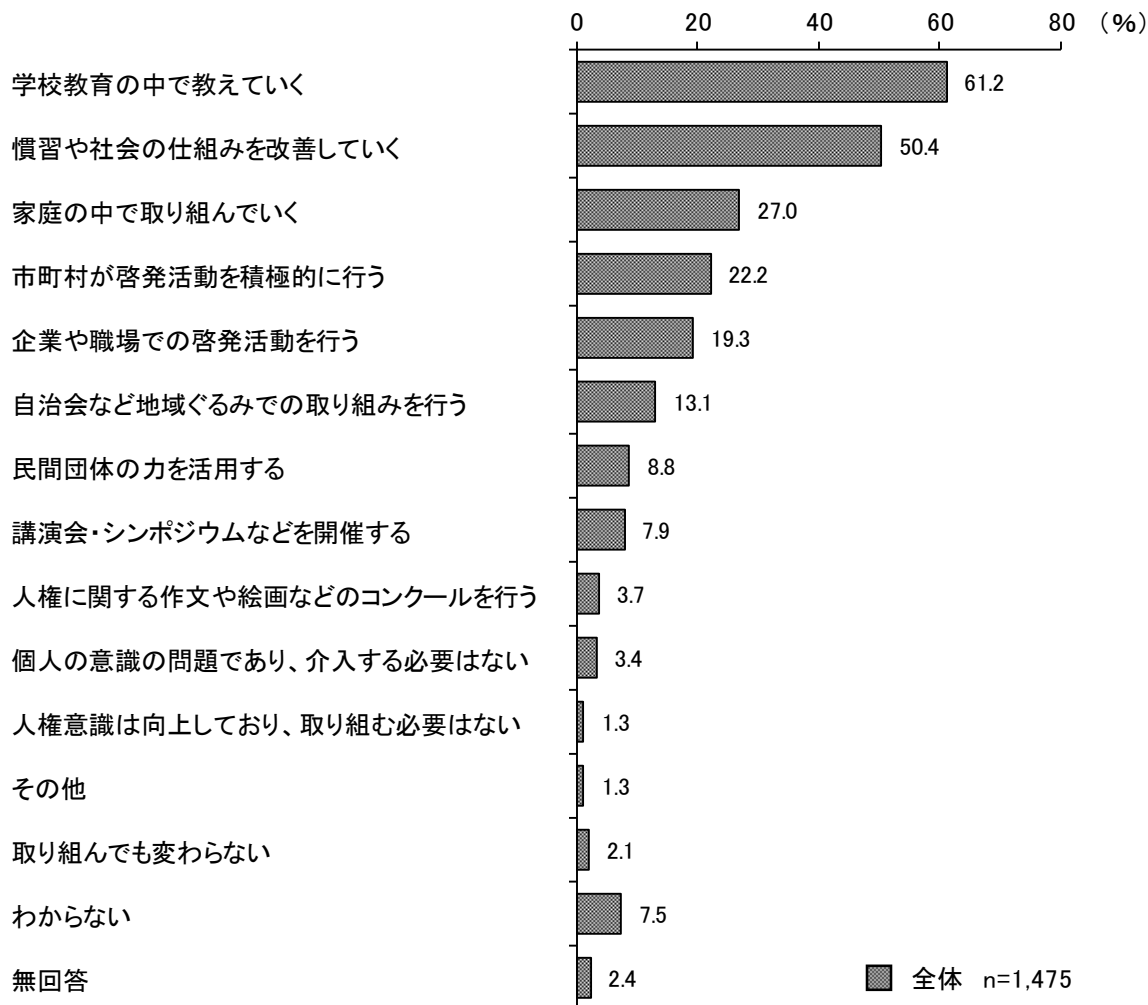
単位：%	インターネットによる人権侵害	こどもにかかる人権問題	女性にかかる人権問題	障害のある人にかかる人権問題	高齢者にかかる人権問題	災害時における人権への配慮
全体 n=1,475	47.5	37.4	33.6	33.2	32.5	24.3
【性別・年代別】						
男性 n=597	46.1	36.5	22.1	34.0	32.7	19.8
男性18・19歳 n=12	58.3	8.3	8.3	25.0	25.0	0.0
男性20歳代 n=50	42.0	40.0	20.0	26.0	14.0	12.0
男性30歳代 n=53	49.1	49.1	20.8	30.2	20.8	22.6
男性40歳代 n=83	56.6	39.8	22.9	26.5	15.7	19.3
男性50歳代 n=120	51.7	31.7	23.3	30.8	27.5	24.2
男性60歳代 n=113	46.9	29.2	20.4	32.7	31.0	16.8
男性70歳以上 n=166	35.5	40.4	24.1	45.2	56.0	21.7
女性 n=829	49.0	39.0	42.3	33.2	33.3	27.7
女性18・19歳 n=5	60.0	40.0	80.0	60.0	20.0	20.0
女性20歳代 n=57	42.1	36.8	49.1	26.3	14.0	17.5
女性30歳代 n=94	44.7	54.3	51.1	28.7	19.1	24.5
女性40歳代 n=148	58.1	54.1	50.7	29.1	23.6	27.0
女性50歳代 n=174	56.3	25.9	39.1	27.6	23.6	24.1
女性60歳代 n=141	48.9	33.3	39.0	38.3	45.4	27.0
女性70歳以上 n=209	39.7	36.8	34.9	40.7	52.2	35.9

(5) 人権意識を高めていくために必要な取組

◇「学校教育の中で教えていく」が 61.2%

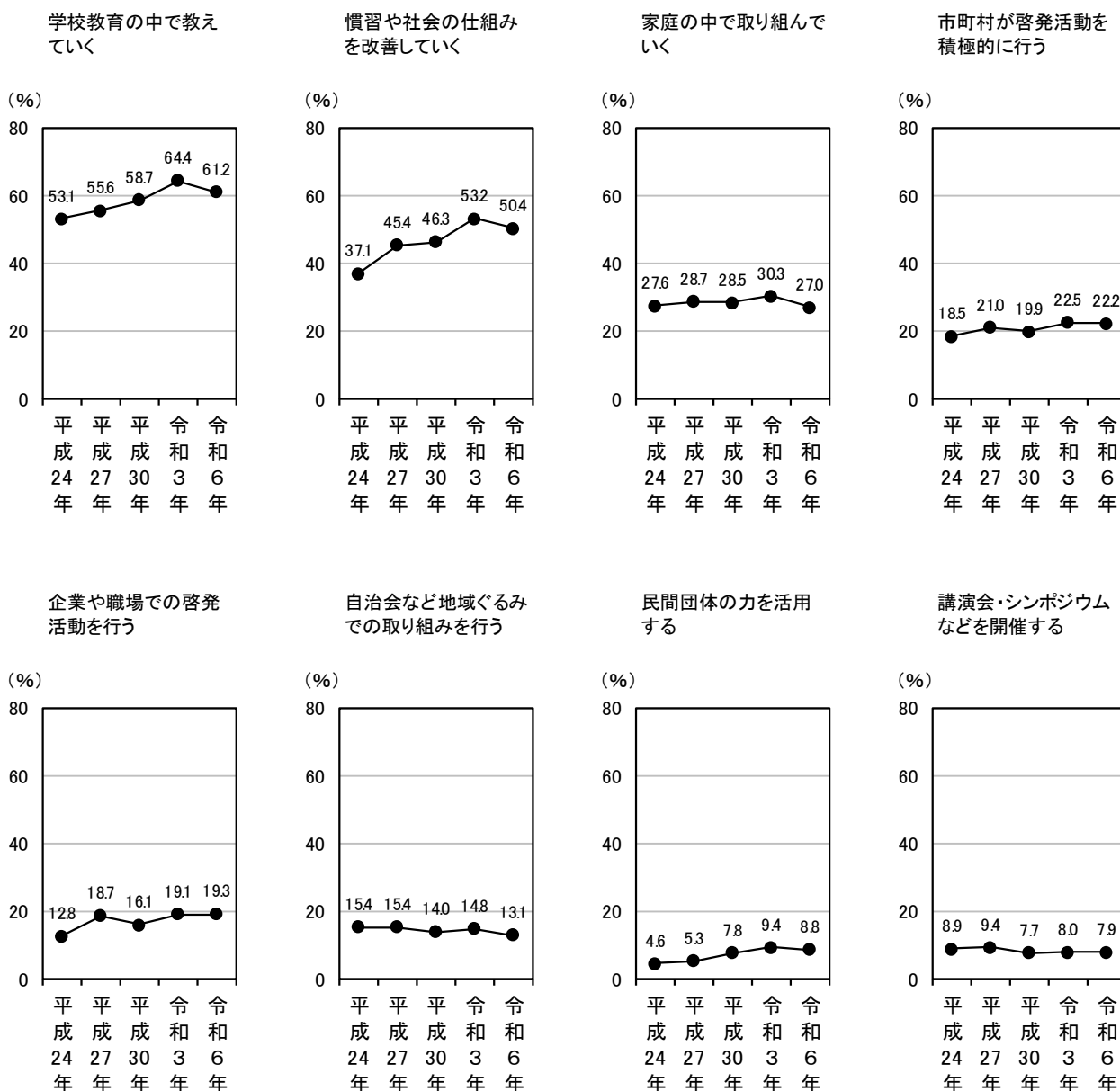
問 44 人権問題についての理解を深め、人権意識を高めていくためには、今後どのような取組が必要だとお考えですか。(いくつでも)

人権意識を高めていくために必要な取組については、「学校教育の中で教えていく」が 61.2%で最も高く、次いで「慣習や社会の仕組みを改善していく」が 50.4%、「家庭の中で取り組んでいく」が 27.0%、「市町村が啓発活動を積極的に行う」が 22.2%となっている。



■ 時系列での比較（上位8項目）

上位8項目を時系列でみると、「企業や職場での啓発活動を行う」以外の項目は前回調査から減少しており、「学校教育の中で教えていく」は3.2ポイント減少、「慣習や社会の仕組みを改善していく」は2.8ポイント減少し、増加傾向から減少に転じている。「家庭の中で取り組んでいく」も3.3ポイント減少している。しかし、平成24年度と比べると、「慣習や社会の仕組みを改善していく」は13.3ポイント、「学校教育の中で教えていく」、「企業や職場での啓発活動を行う」は6ポイント以上増加している。



■ 性別・年代別（上位6項目）

上位6項目を性別・年代別でみると、「市町村が啓発活動を積極的に行う」は男性、それ以外は女性でより高く、「家庭の中で取り組んでいく」は10.4ポイント、「学校教育の中で教えていく」、「慣習や社会の仕組みを改善していく」は6ポイント以上女性が男性を上回っている。「学校教育の中で教えていく」は男性・女性ともに20歳代以上で1位となっており、男性40歳代を除き5割以上、女性40歳代は7割と高くなっている。「慣習や社会の仕組みを改善していく」は女性40歳代で6割を超え、男性30歳代、女性30歳代、50歳代、60歳代、70歳代以上も5割台と高くなっている。また、「家庭の中で取り組んでいく」は女性30歳代、40歳代で約4割となっており、「市町村が啓発活動を積極的に行う」、「自治会など地域ぐるみでの取り組みを行う」は男性70歳代以上で全体を10ポイント以上高くなっている。

単位：％	学校教育の中で教えていく	慣習や社会の仕組みを改善していく	家庭の中で取り組んでいく	市町村が啓発活動を積極的に行う	企業や職場での啓発活動を行う	自治会など地域ぐるみでの取り組みを行う
全体 n=1,475	61.2	50.4	27.0	22.2	19.3	13.1

【性別・年代別】

男性 n=597	58.1	45.9	21.1	24.8	18.9	13.7
男性18・19歳 n=12	91.7	33.3	25.0	8.3	16.7	16.7
男性20歳代 n=50	58.0	48.0	22.0	6.0	12.0	2.0
男性30歳代 n=53	60.4	54.7	26.4	20.8	18.9	5.7
男性40歳代 n=83	49.4	45.8	24.1	19.3	21.7	12.0
男性50歳代 n=120	52.5	40.8	16.7	18.3	21.7	8.3
男性60歳代 n=113	61.9	43.4	22.1	27.4	15.0	11.5
男性70歳以上 n=166	60.8	48.8	19.9	38.6	20.5	25.9

女性 n=829	64.3	54.6	31.5	20.6	19.8	12.7
女性18・19歳 n=5	60.0	80.0	20.0	20.0	20.0	0.0
女性20歳代 n=57	68.4	47.4	15.8	15.8	21.1	7.0
女性30歳代 n=94	69.1	52.1	38.3	7.4	16.0	10.6
女性40歳代 n=148	70.3	62.8	40.5	20.9	20.9	8.8
女性50歳代 n=174	61.5	53.4	29.9	20.7	23.6	9.8
女性60歳代 n=141	63.1	50.4	22.0	19.9	22.7	15.6
女性70歳以上 n=209	60.3	55.0	34.4	28.2	15.3	18.7

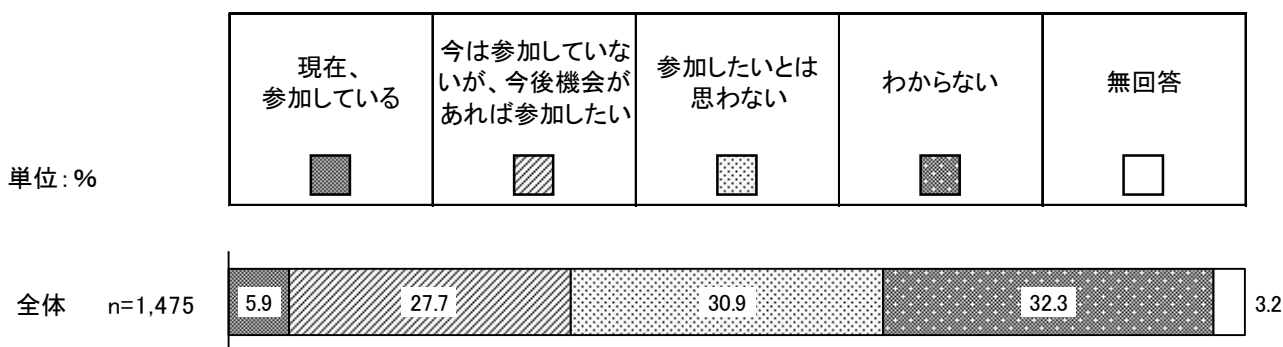
（６）市民活動への参加意向

◇「参加したいとは思わない」が 30.9%

問 45 あなたは、市民活動に参加したいと思いますか。（１つのみ）

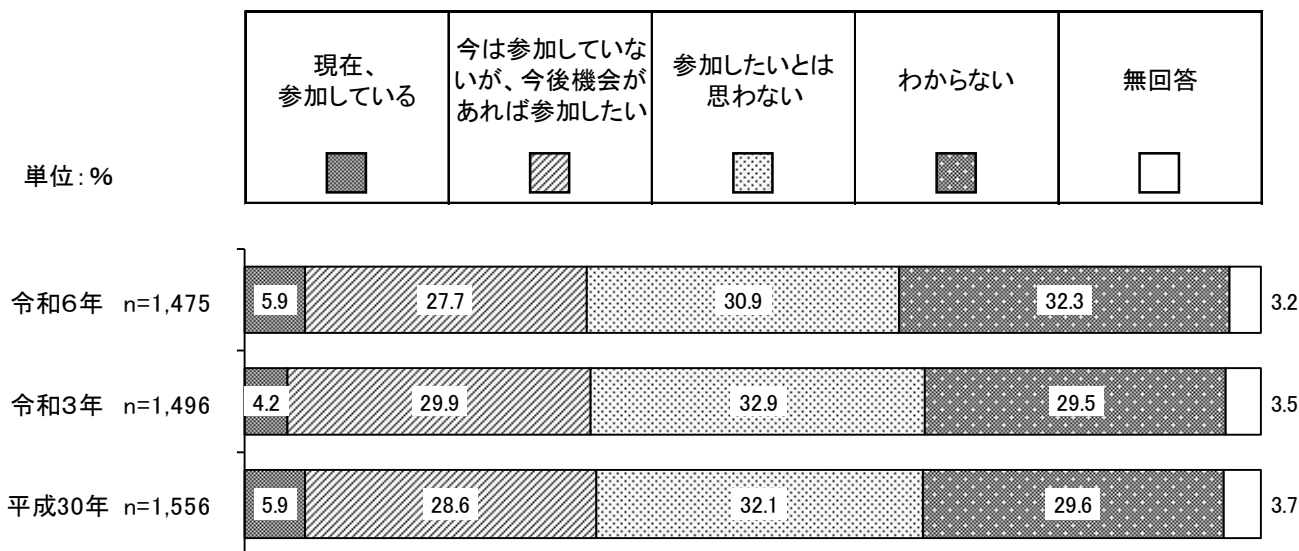
※「市民活動」とは、「営利を目的とせず、社会や地域の課題の解決に向けて自発的・自主的・継続的に行う活動（宗教活動や政治活動を主な目的とする活動は除く）」を想定しています。

市民活動への参加意向については、「参加したいとは思わない」が 30.9%で最も高く、次いで「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」が 27.7%、「現在、参加している」が 5.9%となっている。なお、「わからない」は 32.3%となっている。



■ 時系列での比較

時系列でみると、過去の調査結果と大きな差はみられない。



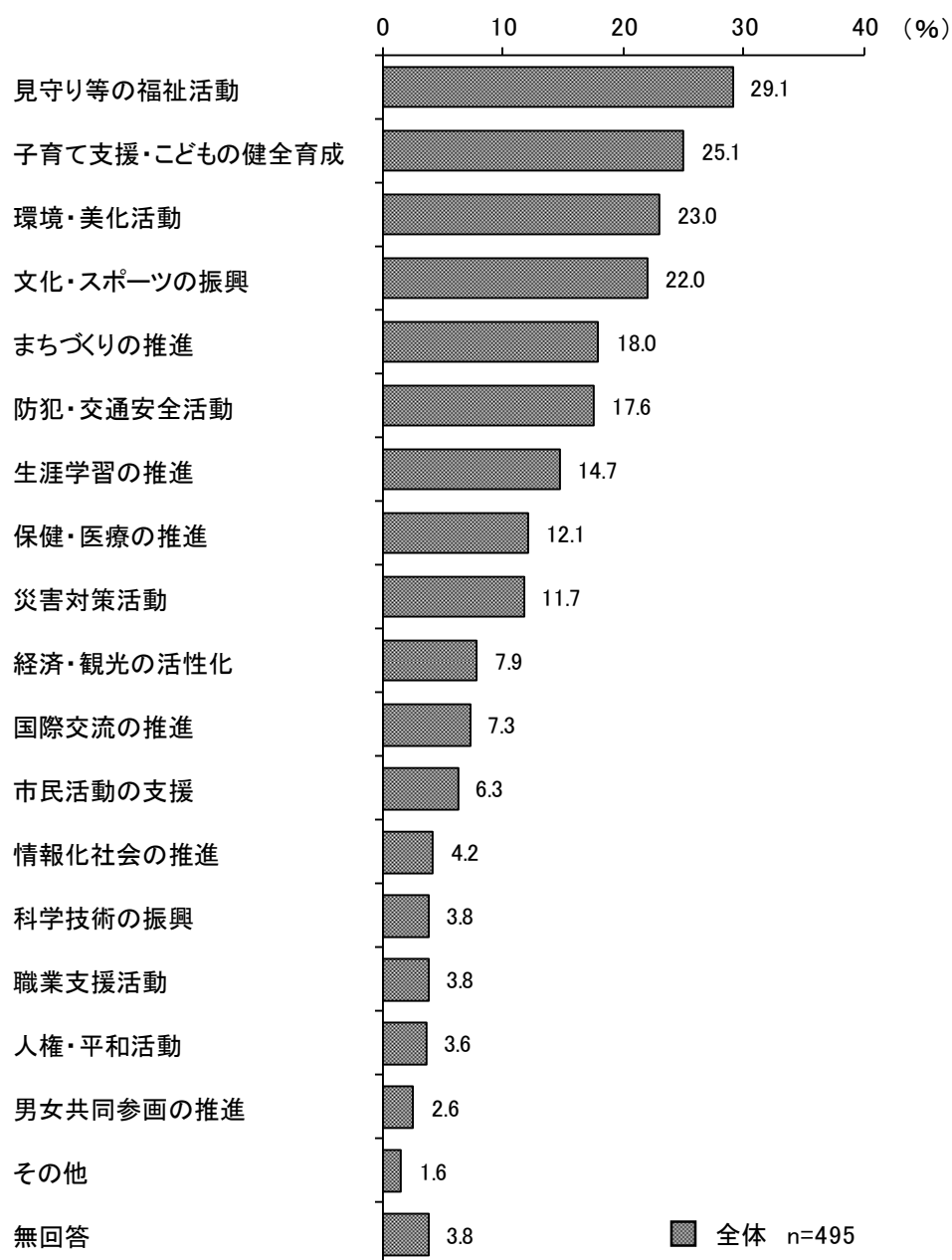
(7) 参加したい市民活動の分野

◇「見守り等の福祉活動」が 29.1%

【問 45 で「現在、参加している」「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」と回答した方におたずねします。】

問 45－1 あなたが参加している、または参加したいと思う市民活動の分野は何ですか。
次の中から3つ以内で選んでください。(3つまで)

参加したい市民活動の分野については、「見守り等の福祉活動」が 29.1%で最も高く、次いで「子育て支援・こどもの健全育成」が 25.1%、「環境・美化活動」が 23.0%、「文化・スポーツの振興」が 22.0%となっている。



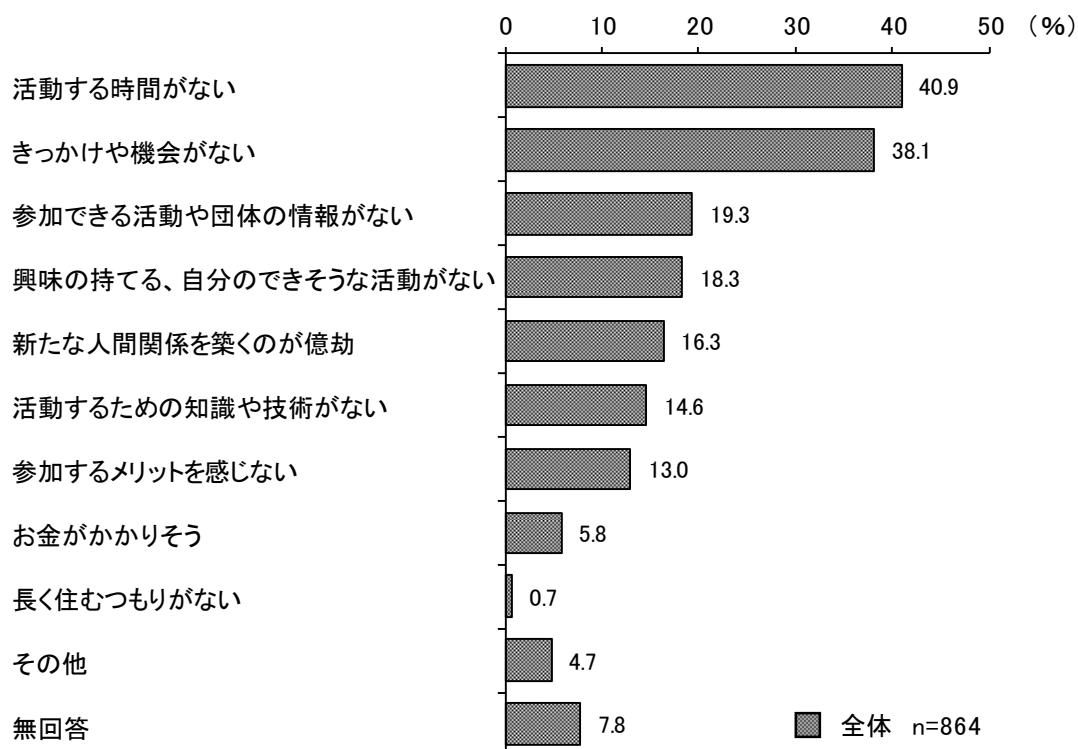
(8) 市民活動に参加していない、参加したいと思わない理由

◇「活動する時間がない」が40.9%

【問45で「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」「参加したいとは思わない」と回答した方におたずねします。】

問45-2 参加していない、または参加したいと思わない理由は何ですか。(いくつでも)

市民活動に参加していない、参加したいと思わない理由については、「活動する時間がない」が40.9%で最も高く、次いで「きっかけや機会がない」が38.1%、「参加できる活動や団体の情報がない」が19.3%、「興味の持てる、自分のできそうな活動がない」が18.3%となっている。

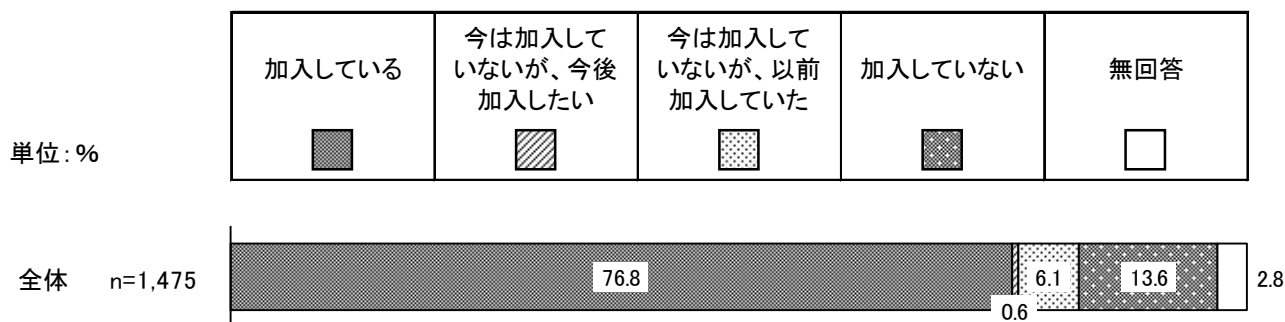


(9) 自治会への加入状況

◇「加入している」が76.8%

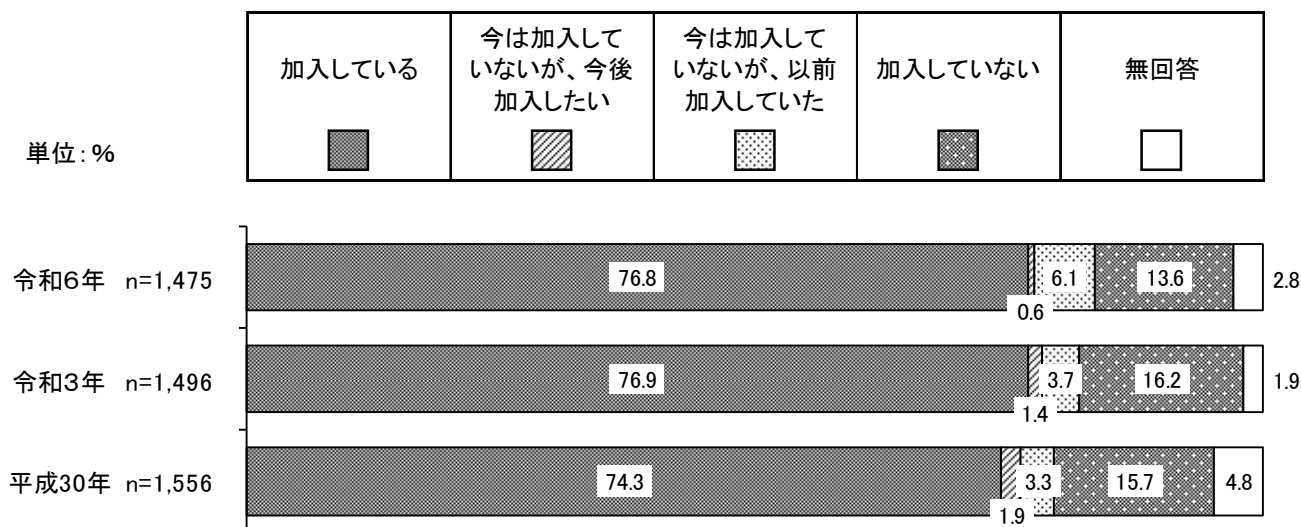
問 46 自治会への加入の有無について、教えてください。(1つのみ)

自治会への加入状況については、「加入している」が76.8%で最も高く、次いで「加入していない」が13.6%、「今は加入していないが、以前加入していた」が6.1%、「今は加入していないが、今後加入したい」が0.6%となっている。



■ 時系列での比較

時系列でみると、「今は加入していないが、以前加入していた」は前回調査より2.4ポイント、平成30年度より2.8ポイント増加し、増加傾向となっている。



■ 年代列

年代列でみると、「加入している」は60歳代、70歳以上で8割台と高くなっている。一方、「加入していない」は20歳代で4割を超えているが、年代が高くなるにつれ減少傾向となっている。

単位：％	加入している	今は加入していないが、今後加入したい	今は加入していないが、以前加入していた	加入していない	無回答
全体 n=1,475	76.8	0.6	6.1	13.6	2.8
【年代別】					
18・19歳 n=17	52.9	5.9	0.0	35.3	5.9
20歳代 n=110	48.2	1.8	3.6	42.7	3.6
30歳代 n=150	63.3	2.0	4.0	27.3	3.3
40歳代 n=238	79.4	0.4	6.3	12.2	1.7
50歳代 n=297	79.1	0.3	7.7	11.1	1.7
60歳代 n=257	83.7	0.0	7.4	6.6	2.3
70歳以上 n=375	85.3	0.3	5.9	6.4	2.1

■ 居住地区列

居住地区列でみると、「加入している」は『霞ヶ関北地区』が88.5%で最も高く、『古谷地区』、『芳野地区』、『名細地区』も8割台となっている。一方、「加入していない」は『川鶴地区』が21.1%で最も高く、次いで『霞ヶ関地区』が16.6%、『本庁地区』が15.8%となっている。

単位：％	加入している	今は加入していないが、今後加入したい	今は加入していないが、以前加入していた	加入していない	無回答
全体 n=1,475	76.8	0.6	6.1	13.6	2.8
【居住地区別】					
本庁地区 n=330	77.9	0.9	4.5	15.8	0.9
芳野地区 n=44	86.4	0.0	0.0	11.4	2.3
古谷地区 n=59	86.4	0.0	5.1	6.8	1.7
南古谷地区 n=131	77.1	0.8	6.1	13.0	3.1
高階地区 n=157	73.2	0.0	9.6	14.6	2.5
福原地区 n=94	78.7	1.1	3.2	12.8	4.3
大東地区 n=138	77.5	0.0	8.7	10.1	3.6
霞ヶ関地区 n=163	75.5	0.6	4.9	16.6	2.5
川鶴地区 n=71	63.4	1.4	12.7	21.1	1.4
霞ヶ関北地区 n=52	88.5	0.0	3.8	7.7	0.0
名細地区 n=96	84.4	0.0	6.3	7.3	2.1
山田地区 n=77	77.9	2.6	7.8	10.4	1.3

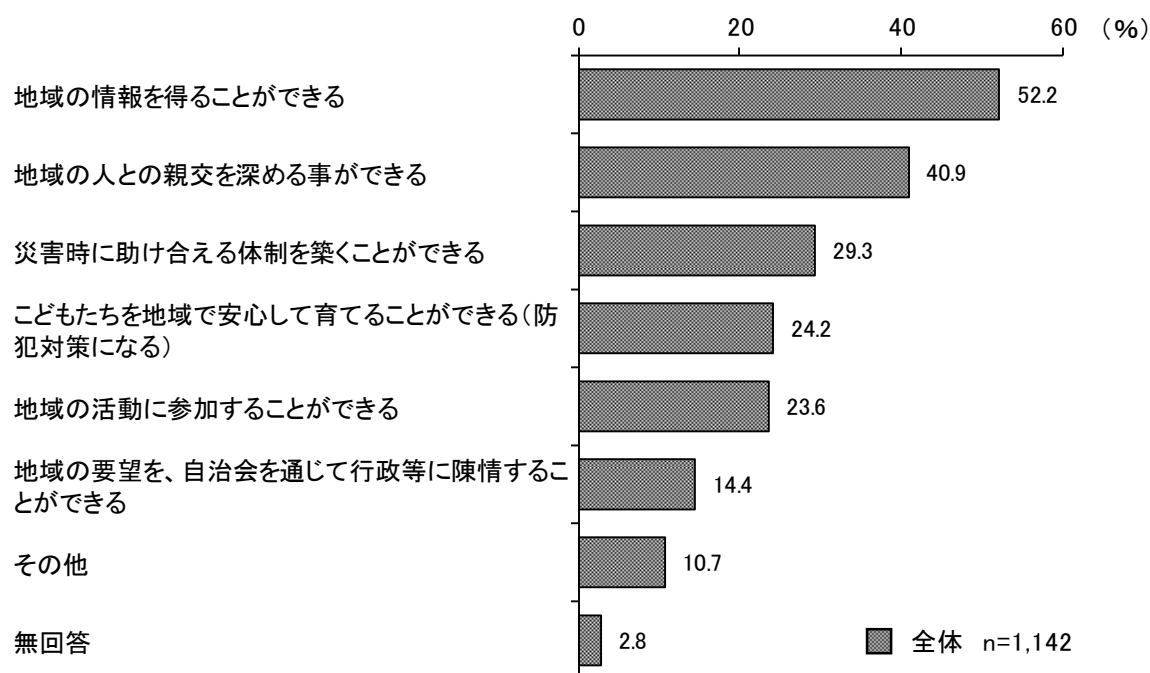
(10) 自治会に加入していて良かった、加入したいと思う理由

◇「地域の情報を得ることができる」が 52.2%

【問 46 で「加入している」「今は加入していないが、今後加入したい」と回答した方におたずねします。】

問 46－1 あなたが自治会に加入していて良かった、または加入したいと思う理由は何ですか。
(いくつでも)

自治会に加入していて良かった、加入したいと思う理由については、「地域の情報を得ることができる」が 52.2%で最も高く、次いで「地域の人との親交を深める事ができる」が 40.9%、「災害時に助け合える体制を築くことができる」が 29.3%、「子どもたちを地域で安心して育てることができる(防犯対策になる)」が 24.2%となっている。



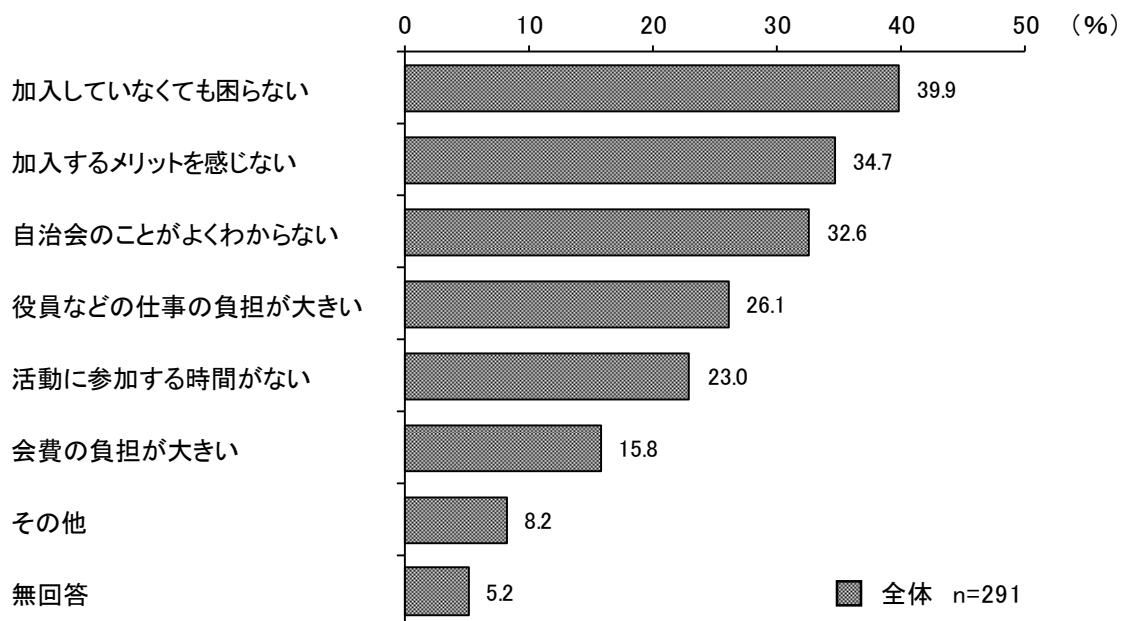
(11) 自治会に加入していない、加入したいと思わない理由

◇「加入していなくても困らない」が 39.9%

【問 46 で「今は加入していないが、以前加入していた」「加入していない」と回答した方におたずねします。】

問 46－2 あなたが自治会に加入していない、または加入したいと思わない理由は何ですか。
(いくつでも)

自治会に加入していない、加入したいと思わない理由については、「加入していなくても困らない」が 39.9%で最も高く、次いで「加入するメリットを感じない」が 34.7%、「自治会のことがよくわからない」が 32.6%、「役員などの仕事の負担が大きい」が 26.1%となっている。



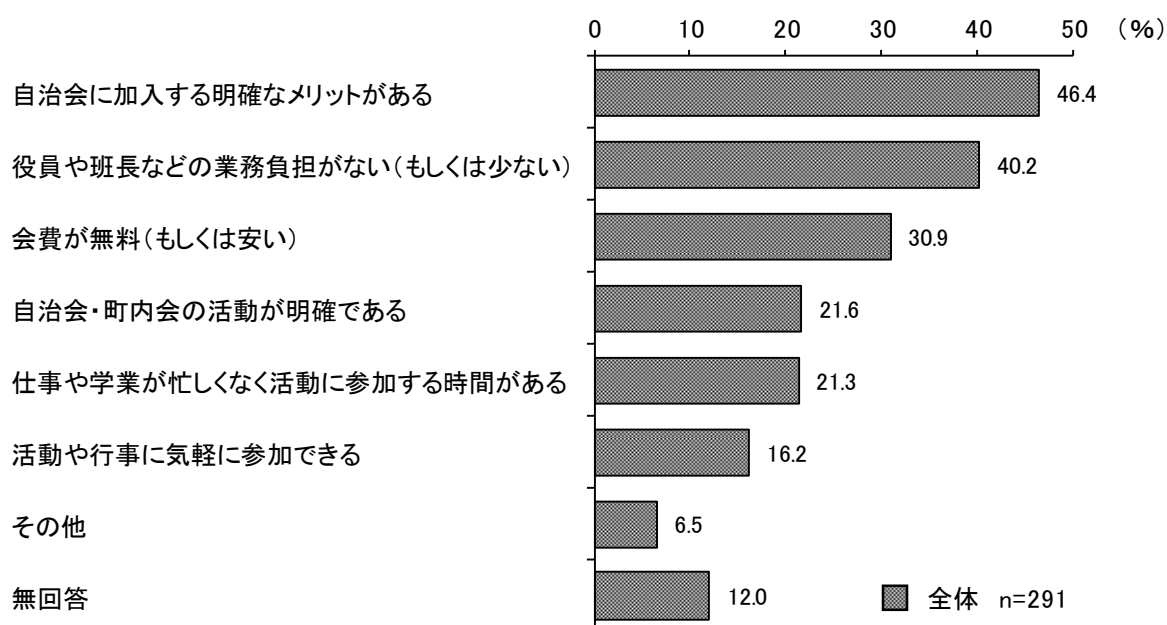
(12) 自治会への加入を考えてもいい、加入したいと思える条件

◇「自治会に加入する明確なメリットがある」が46.4%

【問46で「今は加入していないが、以前加入していた」「加入していない」と回答した方におたずねします。】

問46-3 あなたが自治会への加入を考えてもいい、または加入したいと思える条件は何ですか。
(いくつでも)

自治会への加入を考えてもいい、加入したいと思える条件については、「自治会に加入する明確なメリットがある」が46.4%で最も高く、次いで「役員や班長などの業務負担がない(もしくは少ない)」が40.2%、「会費が無料(もしくは安い)」が30.9%、「自治会・町内会の活動が明確である」が21.6%となっている。



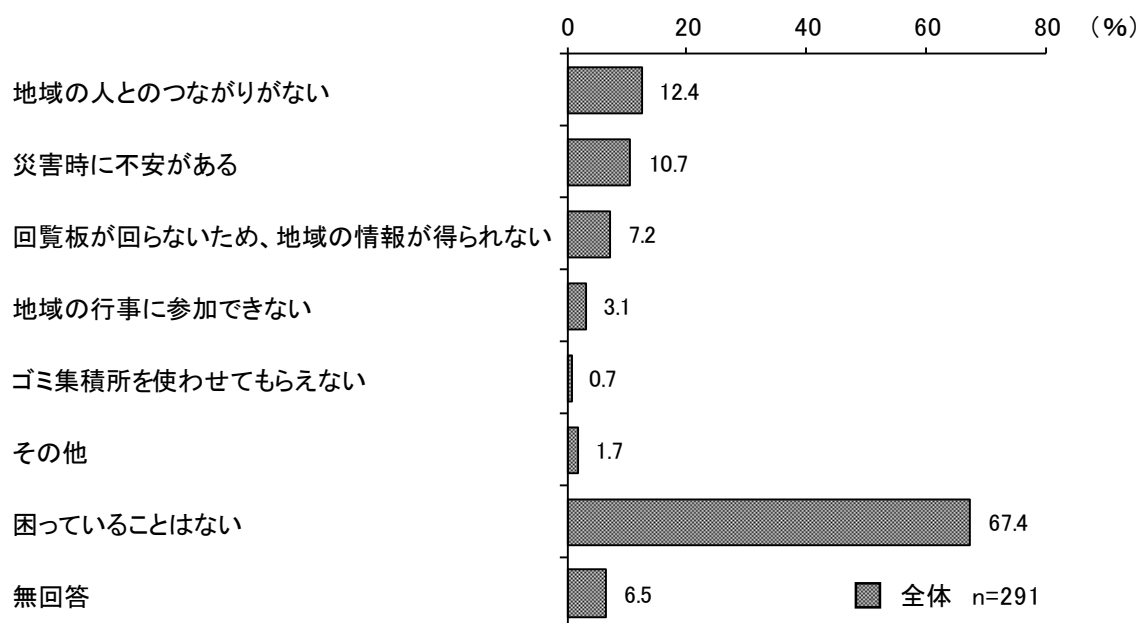
(13) 自治会に加入していないことで困っていること

◇「地域の人とのつながりがない」が 12.4%

【問 46 で「今は加入していないが、以前加入していた」「加入していない」と回答した方におたずねします。】

問 46-4 自治会に加入していないことで、困っていることは何ですか。(いくつでも)

自治会に加入していないことで困っていることについては、「地域の人とのつながりがない」が 12.4%で最も高く、次いで「災害時に不安がある」が 10.7%、「回覧板が回らないため、地域の情報が得られない」が 7.2%、「地域の行事に参加できない」が 3.1%となっている。なお、「困っていることはない」は 67.4%となっている。

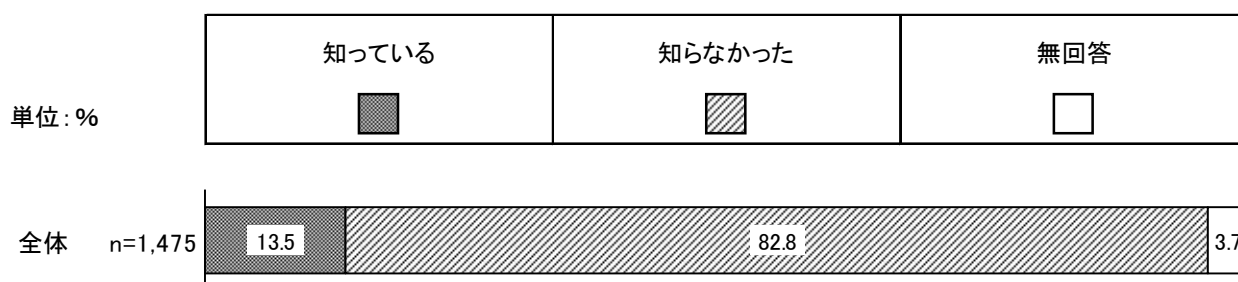


(14)「地域会議」が設立されていること・活動していることの認知状況

◇「知らなかった」が82.8%

問 47 各地域における課題の解決に取り組むため、地域ごとに各種団体や個人が参加して「地域会議」が設立されていること・活動していることをご存知ですか。(1つのみ)

「地域会議」が設立されていること・活動していることの認知状況については、「知っている」が13.5%、「知らなかった」が82.8%と、「知らなかった」が69.3ポイント上回っている。

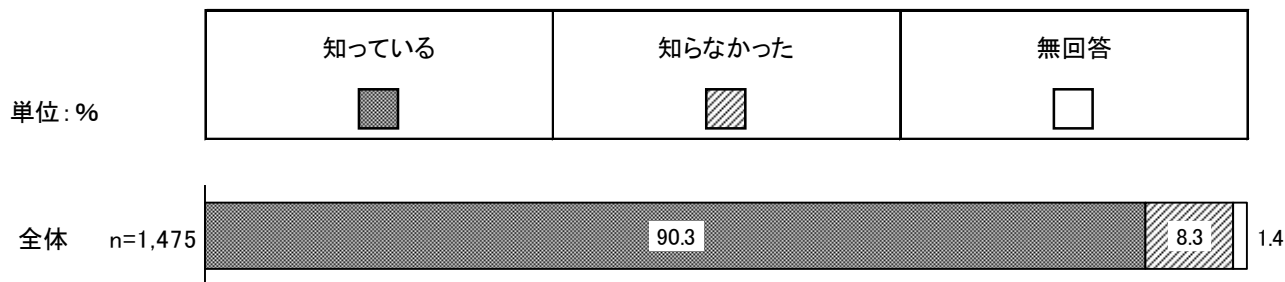


(15) 市民センター・連絡所での手続きの認知状況

◇「知っている」が 90.3%

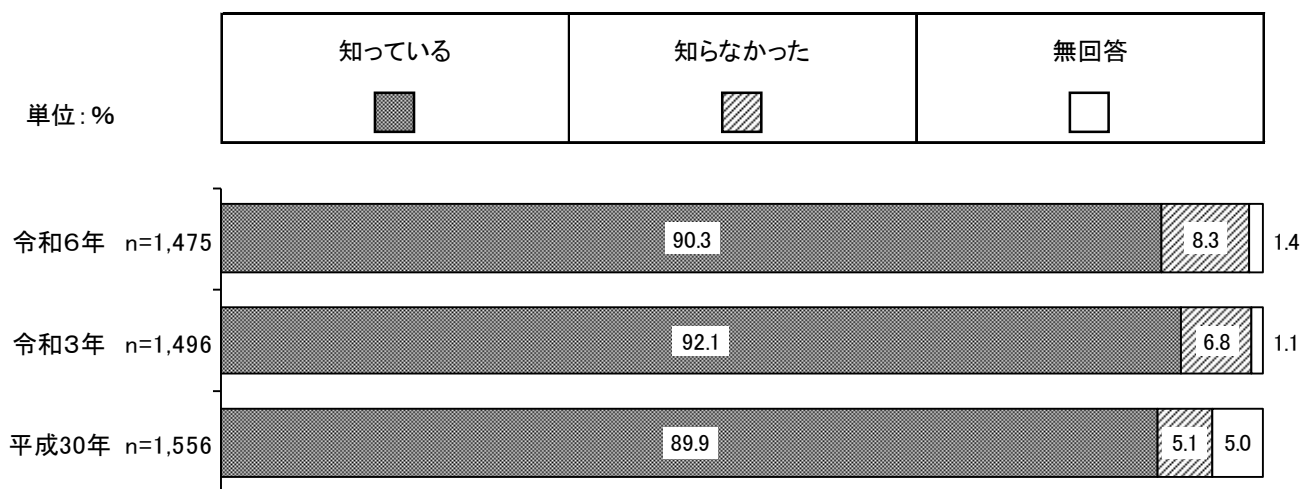
問 48 住民票や戸籍などの証明書の取得、印鑑登録、住所変更（転入・転出など）や戸籍の届出（婚姻・出生など）は、市民センターや川越駅西口連絡所でも手続きができることをご存知ですか。（1つのみ）

市民センター・連絡所での手続きの認知状況については、「知っている」が 90.3%、「知らなかった」が 8.3%と、「知っている」が 82.0 ポイント上回っている。



■ 時系列での比較

時系列でみると、「知らなかった」は前回調査より 1.5 ポイント、平成 30 年度より 3.2 ポイント増加し、増加傾向となっている。

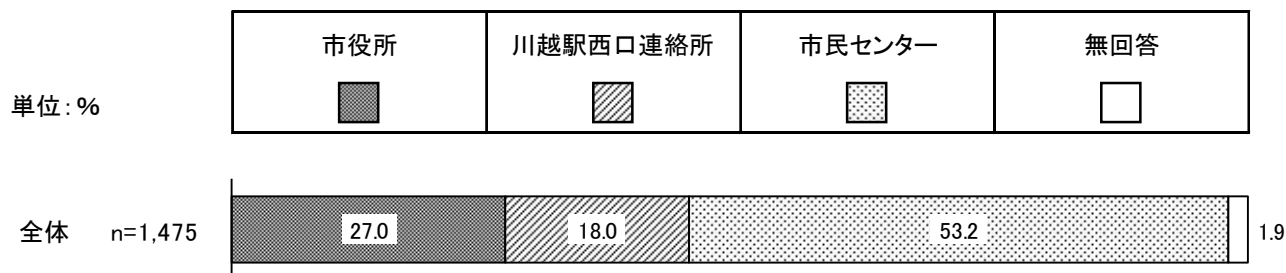


(16) 住民票等の取得手続きで利用している施設

◇「市民センター」が53.2%

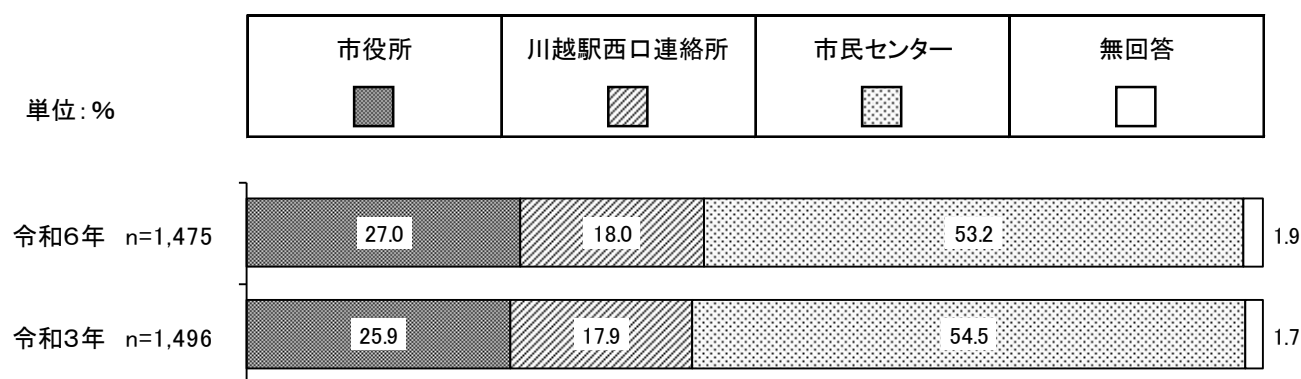
問 49 住民票や戸籍などのお手続きをする場合、どこを利用されますか。(1つのみ)

住民票等の取得手続きで利用している施設については、「市民センター」が53.2%で最も高く、次いで「市役所」が27.0%、「川越駅西口連絡所」が18.0%となっている。



■ 時系列での比較

時系列でみると、過去の調査結果と大きな差はみられない。



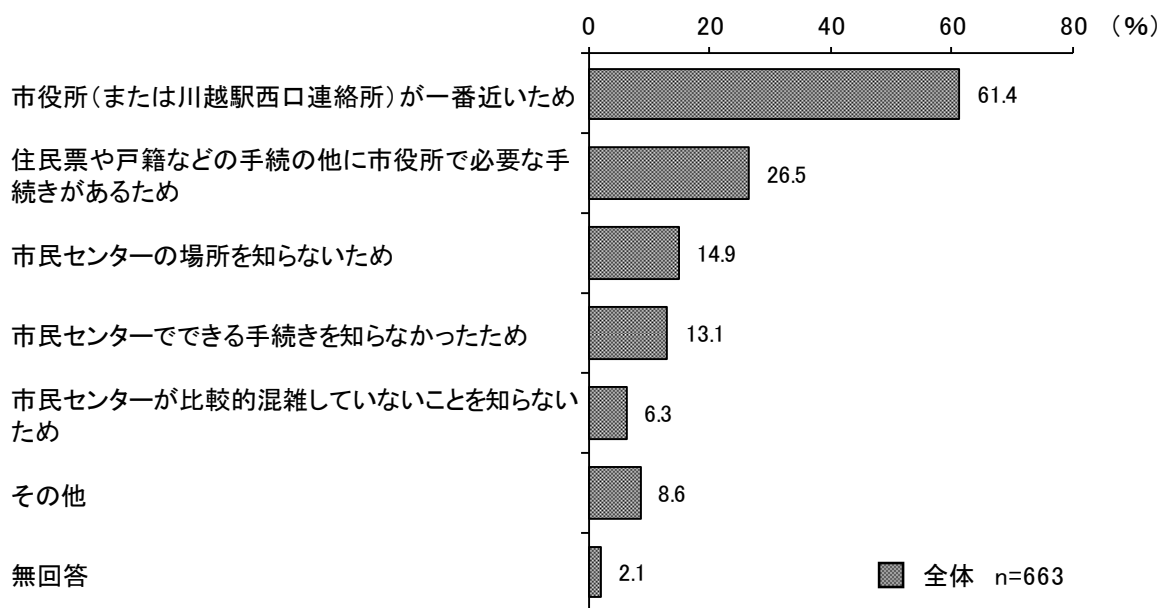
(17) 市役所・川越駅西口連絡所を利用する理由

◇「市役所（または川越駅西口連絡所）が一番近い」が 61.4%

【問 49 で「市役所」または「川越駅西口連絡所」と回答した方におたずねします。】

問 49－1 「市役所」または「川越駅西口連絡所」を利用する理由は何ですか。（いくつでも）

市役所・川越駅西口連絡所を利用する理由については、「市役所（または川越駅西口連絡所）が一番近い」が 61.4%で最も高く、次いで「住民票や戸籍などの手続の他に市役所で必要な手続きがあるため」が 26.5%、「市民センターの場所を知らないため」が 14.9%、「市民センターでできる手続きを知らなかったため」が 13.1%となっている。



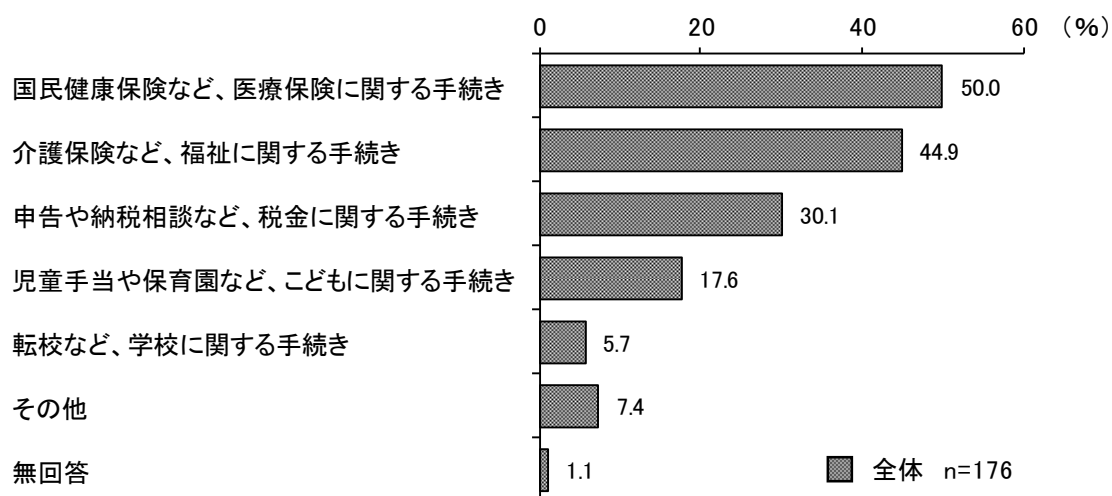
(18) 住民票や戸籍などの手続の他に市役所で必要な手続き

◇「国民健康保険など、医療保険に関する手続き」が 50.0%

【問 49－1 で住民票や戸籍などの手続の他に市役所で必要な手続きがあるためと回答した方におたずねします。】

問 49－2 住民票や戸籍などの手続の他に市役所で必要な手続きは何ですか。(いくつでも)

住民票や戸籍などの手続の他に市役所で必要な手続きについては、「国民健康保険など、医療保険に関する手続き」が 50.0%で最も高く、次いで「介護保険など、福祉に関する手続き」が 44.9%、「申告や納税相談など、税金に関する手続き」が 30.1%、「児童手当や保育園など、子どもに関する手続き」が 17.6%となっている。

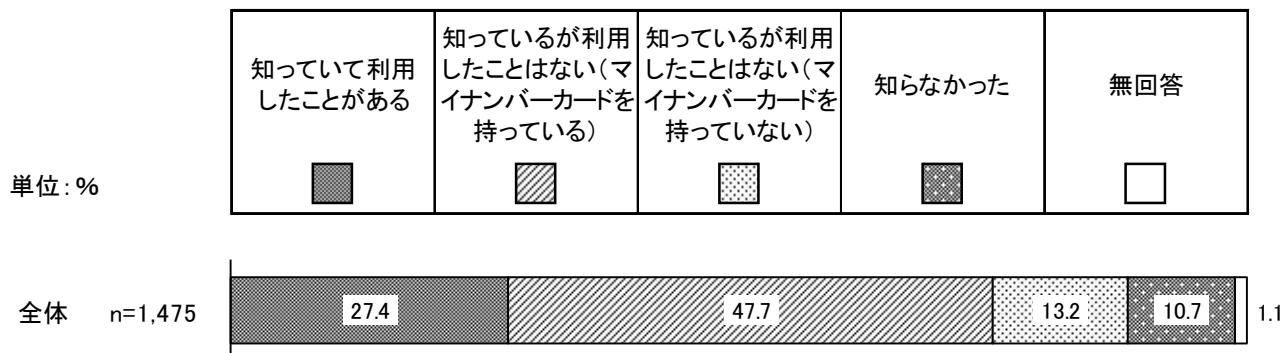


(19) 証明書等の「コンビニ交付」サービスの認知状況

◇「知っているが利用したことはない（マイナンバーカードを持っている）」が 47.7%

問 50 証明書等の「コンビニ交付」サービスを知っていますか。（1つのみ）

証明書等の「コンビニ交付」サービスの認知状況については、「知っているが利用したことはない（マイナンバーカードを持っている）」が 47.7%で最も高く、次いで「知っていて利用したことがある」が 27.4%、「知っているが利用したことはない（マイナンバーカードを持っていない）」が 13.2%、「知らなかった」が 10.7%となっている。



(20)「コンビニ交付」サービスを利用したことがない理由

◇「マイナンバーカード取得後、証明書を取得する必要がなかった」が49.6%

【問 50 で知っているが利用したことがない（マイナンバーカードを持っている）と回答した方におたずねします。】

問 50－1 利用したことがない理由は何ですか。（いくつでも）

「コンビニ交付」サービスを利用したことがない理由については、「マイナンバーカード取得後、証明書を取得する必要がなかった」が49.6%で最も高く、次いで「職員のいる窓口の方が安心」が42.2%、「セキュリティ対策が万全か不安」が19.9%、「端末の操作方法が分からない」が18.3%となっている。

